

## あ・と・が・き

最近の新聞紙上にセリ上場馬の取引改革案として、競走馬の治療履歴開示の提言記事が、また、身近では北海道市場業務規程の改正として従来の上場馬の悪癖・疾病に加えて落札馬の状態・症状(特に骨の疾患)によっては判定委員会の裁定によって売買契約の解除となる場合のあることが記載されています。BTC ニュースには 38 号から 43 号に「体の仕組みを知る」のコーナーで骨に関して連載してありますので、是非再度読み直して胸を張って上場できる馬に育て上げて下さい。

「たづな」覧には、現在最も馬に深い造詣を持っている者の一人である池本全国乗馬倶楽部振興協会会長から育成運動の変遷の一部を寄稿頂きました。久し振りに鍛錬のタームを読み育成運動の歴史を垣間見た気がいたします。

「サイエントストからの提言」のコーナーには蹄の調査・研究に生涯をかけて来た宮木先生から「幼駒の蹄を考える」と題し、幼駒期の蹄管理の重要性を再認識させられる文章です。是非、複数回読んで強い馬づくりの参考にして下さい。

「調査研究」には前号に引き続き高井先生から「ロドコッカス症の診断と予防」について、また、JRA の帆保先生からは手術無しで体の中を覗き見ることのできる「内視鏡」、特にノドナリなどの育成馬の呼吸器疾患に威力を発揮する気管支鏡検査について紹介して頂きました。

「やさしい育成技術」には前号に引き続き「1歳馬の馴致と人材養成」の馴致についての内容を記載しています。「育成施設めぐり」には引退名馬の紹介として本州・四国・九州編を記載しています。引退名馬の17年度助成金交付申請の〆切は11月30日です。

BTC 診療所に最新のレントゲン装置が入りましたので、管理馬の健康相談にご利用下さい。

嬉しいニュースがあります。日本装蹄師会の青木修先生が日本人として初めて国際馬専門獣医師の殿堂入りを果たされました。米国ケンタッキー州のチャーチルダウンス競馬場に隣接するダービー博物館内の顕彰コーナーに掲示されているそうです。御目出当御座います。(M.K.)